

～素敵な女性のライフスタイルに学ぼう～

Madam's Life Style

美生活Vol.5

感動できるって素敵。
歌が大好きだから
自分で道を切り開いてきた



撮影：新国立劇場のオペラ劇場前ホワイエにて（新国立劇場03-5351-3011）
2005年3月のオペラ「コジファン・トゥッテ」に出演予定

オペラ歌手 ウィーン在住 中嶋彰子さん

オペラの本場・ウィーンの名門歌劇場フォルクスオーパーで、日本人として初めて主役の座を射止めた声楽家の中嶋彰子さん（35）。全豪オペラコンクール優勝を皮切りに、自分の信じる道を一歩ずつ開拓し続け、今や音楽の都を代表するトップスターとして人気を不動のものとしています。そのサクセス・ストーリーは、言葉や文化の壁を飛び越える旺盛な行動力で裏打ちされ、世界各国の公演で高い評価を勝ち得てきました。来日公演に合わせた2日間の密着取材で、底知れぬパワーにすっかり魅了されてしまいました。

プロフィール

1969年北海道生まれ。90年全豪オペラコンクールに優勝。92年にはヨーロッパデビューを果たし、ヨーロッパ放送連合から最優秀賞を受賞。99年からはウィーン・フォルクスオーパーの専属歌手となり、劇場の看板スターとして活躍中。2004年出光音楽賞を受賞。



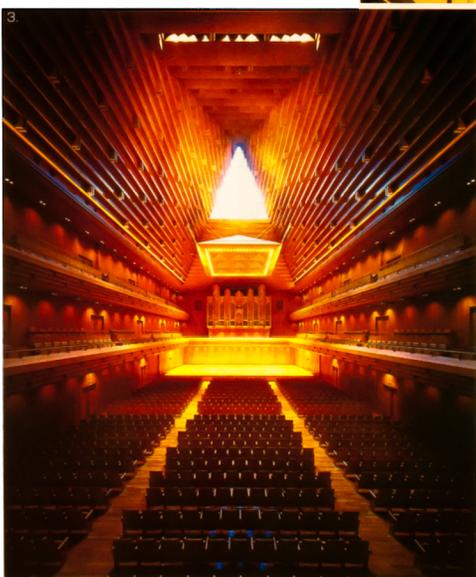
クラシック音楽界に新風を吹き込む、型破りな歌姫

99年にウイーンの大歌劇場の二つ、フォルクスオーバーの専属歌手となり、初舞台であるレハール作曲「ロシア皇太子」で主役を務めた彼女は、「躍スターダムを駆け上がりました。格式ある同劇場での主役は日本人初という快挙に加えて、「非の打ち所のない歌唱力と魅惑的な演技力を兼ね備えた輝かしいソプラノ」と地元紙でも絶賛されました。

華やかなキャリアとは裏腹に、本人は「ソリエートの雑草魂」と笑い飛ばします。エリート教育を受け、国際コンクールで優秀な成績を出せる日本人はいても、いざ契約となると海外生活に躊躇したりと、その先の結果を残せる人は意外な程少ないのが現実。「オペラは語学芸術の頂点なので、教養の延長線で捉えていて

はダメ」と力説します。そんな彼女は自宅では英語、舞台ではドイツ語とイタリア語、子供との会話では日本語も交え、夏休みは夫の故郷でデンマーク語をと、多言語を自在に操ります。「文法とか難しいことは考えないで、音楽と同じように、まずリズムを覚えるのが早道」と言い、育児の合間にフランス語の習得にも余念がありません。

また、「自分の中にある、日本人としての感性を引き出す修行」と、歌舞伎など伝統文化の勉強にも積極的に取り組んでいます。プロであれば研ぎ澄まされた感性とメンタルな強さも必須条件。その全てを表現できる存在として、公演を重ねる度に注目を集めます。



1. 「歌の勉強に専念するだけでなく、演劇や映画、美術に料理など、好奇心が赴くままに感性を磨いてきたの」(三浦興一さん撮影)
2. 今回の来日公演「東京フィルハーモニー交響楽団 第687回定期演奏会」の本番形式のリハーサル風景。「このホールは、バイオリンの中で歌っているように気持ちがいいのよ」(サントリホールで)
3. 東京オペラシティ コンサートホールか近江楽堂で毎月4回、無料のランチタイムコンサートが企画されています。クラシックからポップスまで、幅広いジャンルの音楽を気軽に楽しむことができます
(東京オペラシティビル(株)03-5353-0700)
4. ウィーン・フォルクスオーバーで華々しいデビューを飾った「ロシア皇太子」(99年)の舞台

自分で自分の枠を決めず、常に120%のエネルギーで頑張る

北海道釧路市生まれで、音楽好きなきな工学博士の父親と、洋裁が得意な母親の元で伸び伸びと育ち、「言葉話を話す前からピアノを弾き、音楽に溢れた生活」を送ってきました。画家や獣医に憧れていたものの、中学時代に発表会で「野ばら」を独唱した時、全校生徒が真剣に聴き入る空気に「舞台に立つ快感を味わってしまった」とか。15歳で家族とともにオーストラリアへ移住。音大進学後は通訳やピアノを教えて学費を稼ぎながら、

声楽の勉強に励みました。

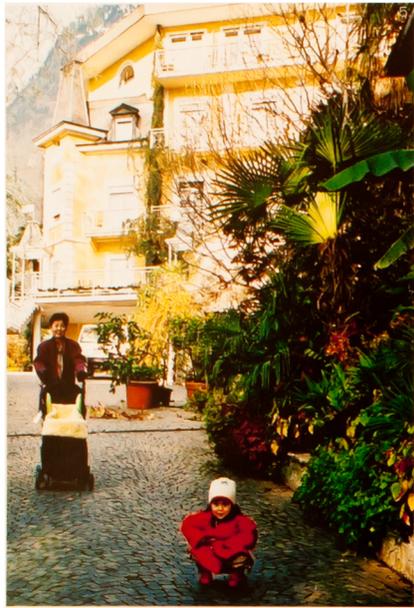


「プロになる」と宣言した時、アマチュア音楽家の父からは「歌舞伎を外国人が演じるようなもの。東洋人として、イタリア人の前でイタリアオペラを歌って稼げるのか」と問われました。「自分に欠けているものは何か」を考えた末、「まずは体力と語学力」だと、毎日5キロ遠泳して心肺機能を鍛えました。小柄ながら、1m90cmもあるバリトンにも負けないう量の秘訣は、鍛え抜いた肺活量にあります。「スピーカーは大きいほど良い音が出る訳ではないでしょう。腹の底から、"氣"を吐くつもりで声を共鳴板に当て、いかに速くへ飛ばせるかのテクニック」を身に付けました。

そんな89年、シドニーオペラ「ラ・ボエーム」に合唱団員として参加した際、物語のキーマンであるムゼッタ役がリハーサルの

最中に不在となるアクシデントに遭遇。そんな時「彼女なら完璧に覚えている」と、周囲から演出家の前に押し出されました。突然の代役ながら、見事に務めた彼女の度胸と将来性に惚れこんだ新進演出家こそ、後に「ロミオナジュリエット」「ムーラン・ルージュ」を手掛ける映画監督、バズ・ルーマン氏だったのです。彼は「いつか一緒に仕事をしよう」と賛辞を惜しみませんでした。舞台栄えのする天性の華が、数多くの芸術家らの関心を惹き付けます。





- 1 夏休みは毎年、夫の故郷であるデンマークで過ごします。古城に泊まり、湖畔で魚釣りを楽しんだり、親子水入らずの時間を満喫します
- 2 アメリアちゃんとアレクサンダー君を前にした瞬間、「おかあちゃんの顔になってしまうの(笑)」。自分でデザインしたキッチンに子供と一緒に立つ時は、お揃いのエプロンを身に付けて、歌を1日ずみながら楽しくクッキング
- 3 ウィーンフィルハーモニー管弦楽団のメンバーとは家族ぐるみのおつきあい。子供たちも自然と音楽に馴染んでいます
- 4 音楽家を志す住み込みベビーシッターのメチさんと「アメリアちゃんが走り回っている大好きな一枚」
- 5 ウィーン都心部に位置するアパートメントは、リビデンシュタイン宮殿やシュベルトの生家にも近く、歴史を刻む美しい街並みが心を豊かにしてくれます
- 6 チロルの山奥のカトリック教会での結婚式には、祖母が選んでくれた振袖姿を選びました

暮らしという“舞台”も楽しんでしまおう 心豊かな生活が表現力の源

その直後の全豪オペラコンクールで優

勝(90年)したのを機に、快進撃の幕が

開けました。92年にはイタリア国内の歌

劇場を巡って、片言のイタリア語でアポ

なし売り込みを敢行。偶然開かれていた

オーディションに飛び入り参加できた時

のエピソードも痛快です。中嶋さんの歌

声が響く試験会場に、すでに引き上げ

ていたオーケストラ団員らが自然と集ま

り始め、いつしか伴奏の輪が広がりました。

歌い終わるや否や拍手の渦が巻き起

こる前代未聞の珍事に、劇場関係者も

大笑いして、即座に採用が決まったとか。

念願のヨーロッパデビューを果たした

同年、ヨーロッパ放送連合から最優秀賞

を受賞。99年からはウィーン・フォルクス

オーパーのプリマとなり、権威ある「オペル

ンヴェルト」誌の年間最優秀新人賞にも

ノミネートされるなど、数々の榮譽を手

にしました。

そんな過密スケジュールの中でも、2児

の母として家族との時間を大切にし、家

事の手を抜かないのも彼女らしいこだわり

です。「子供と一緒に過ごせる限られた

時間は、子供のことにだけに集中したい」

と切り替えが早いのも得意技。

「仕事柄、ジプシーのような生活を強い

られるので、自宅は心が安らぐ場所にし

たい。家をデザインするのも好き」と、キ

ツチンのピルトアップから、床にムク材でモ

ザイクを描くなど、簡単な日曜大工まで

自らこなします。

イタリア料理を作る時には赤ワイン

を片手にカンツォーネを聴くなど、キツチ

ンという“舞台”でも軽快に楽しんでしま

まうのが彰子流。「花と散歩が大好き」

で、子供と手をつないで美しい街並みを

散策する時も「人間ウォッチングは女優

業にも役立つ」と気さくに話しかけ、生

活を愉しむ達人でもあります。

ホームパーティーの機会も多く、「ウィ

ーンの寿司バーといえは、アキコの家」と

音楽関係者が集います。マーケットで調

達した鮮魚を自らさばき、40人前の寿

司も手早く握ってしまおうほどの腕前。「レ

シビなんて見ない。自分の感性を頼りに、

即興で仕上げてしまうから」。指揮者で

ある夫のニルス・ムース氏も「素晴らしい

女性」だと褒め称えます。

美しさを追求するだけではつまらない

自分にしか表現できない音楽で人の心を動かしたい

東京フィルハーモニー交響楽団第六八

七回定期演奏会(2月20日、サントリーホール)では、ウイーン生まれの音楽家ツェムリンスキーの「叙情交響曲 作品18」に

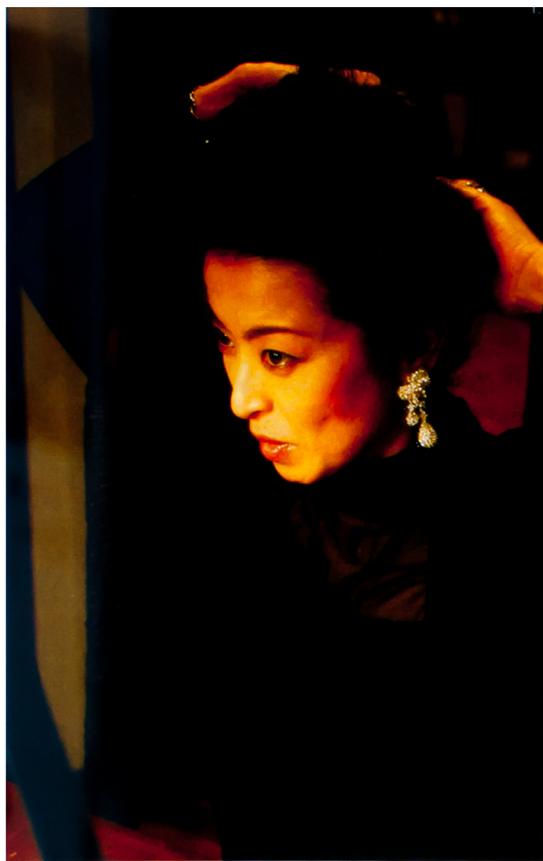
出演。男女が交互に織り成す6つの楽章で、愛の輪廻を歌い上げました。80人のフルオーケストラにも引けを取らない圧倒的な歌唱力。また、音譜という記号の連なりを、1世紀の時を経て鮮やかに蘇えらせる豊かな表現力。そして喝采を全身に浴びた誇らしい笑顔と、客席から拍手を送り続けるご両親の幸せそうな横顔が胸に焼きつきました。

閉演後の楽屋は、彼女の才能と可能性にかける多彩なスタッフたちの充実感で満ち溢れていました。関係者の期待を

「身を集め、それを裏切らない真摯な態度。」「より多くの日本人音楽家が国際舞台で活躍できるように、道標を残したい」という使命感は周囲も認めるところ。「志のある人には、プロの生活の全てを見せてあげたい」と、住み込みベビーシッターは地元の音大で探しました。日本で長期公演がある時には、子供を実家から幼稚園に「短期留学」させてもらうなど、母親でもある歌姫の活躍は、たくさんの

人達の愛情と声援に支えられています。

「美しさを追求するだけの舞台ではつまらない。いろんな人間模様を絵画的な解釈で色付けし、今の自分にしか表現できない音楽で、人々の心を動かしたい。国境もジャンルも関係ない」と、芸術家としての頂点を目指します。「元々の性格はコメディアン。そんな演目を日本でも紹介していきたい」とアイデアは尽きません。



写真右 (DATE)

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1
赤坂アークヒルズ内
(地下鉄六本木一丁目駅から徒歩5分
蒲池山王駅から徒歩7分)

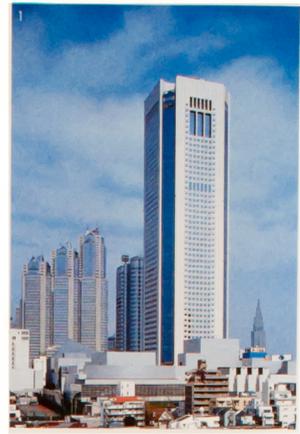
TEL 03-3584-9999

1 「まず自分をコントロールして、本番に向けて集中力を一気に高め、役にはないけど、サントリーホール楽屋で」

2 「パリで発掘した瞬間から、イタリア作曲家の貴重な楽譜は創作意欲を刺激して止まらねえ」

3 「園子さんが持ち上げたヨーロッパのワグネル・ブラント「ECOMACO」の洋服は、シルクを主体にどうもろこしなどの天然繊維を加えた独特の質感が肌心地いい。このカトラーは梅の花で、巻頭のコードはヨモギなどで染め、優しい色合いもお気に入りとか(東京オペラシティのカリブアで)」

4 「良き理解者である両親は、娘の公演の度に駆けつけて、客席から声援を送り続けます(サントリーホールの楽屋で)」



写真上 (DATE)
東京オペラシティビル(株)
 東京都新宿区西新宿 3-20-2
 (都営新宿線・京王新線初台駅から徒歩1分)
 TEL 03-5353-0700 (代表)

写真左 (DATE)
プラスオペラ
 東京オペラシティ1階
 TEL0120-548-830
 営業時間 11:00 ~ 20:00



写真上 (SHOP DATE)
トラットリア・ベラビスタ・サバティーニ
 東京オペラシティ453階
 TEL 03-5353-0533
 営業時間 平日 11:30~15:30
 17:30~23:30
 土日祝 11:30~23:30

自分の道を作るのが好き。 いずれはオペラを プロデュースしたい

- 1 国と民間の連携で生み出された複合文化施設「東京オペラシティ」は、コンサートホール、アートギャラリーなどを擁し、劇場都市の中核を担っています
- 2 中世の趣を色濃く残すフランス西部ブルターニュ地方の城塞の街・カンパールで300年以上の歴史を受け継ぐカンパール陶器。その代表的な名窯・HBアンリオ社の日本総代理店(株)ミューゼの直営店「プラスオペラ」には、伝統的技法を忠実に守り継ぐ職人が手描きした素朴な味わいのテーブルウェアなどがそろっています
- 3 「ベラビスタ-眺めの良い」の店名通り、地上230mからの素晴らしい眺望も自慢。イタリア料理界きっての鉄人シェフ、丸山日出樹調理学長が腕をふるいます
- 4 イタリアから空輸される厳選素材の旨味を引き出した古典ローマ料理は、ローマに本店を置く由緒ある名店の味を忠実に再現しています。薄切りサロインのバルサミコ風(手前)とオマル海老のリングイネ(右)、バルマ産ハムとメロンなど60品のメニューは逸品ぞろいです

来日公演の前日、中嶋さんに馴染みの深い場所として、初台を案内してもらいました。97年に誕生した新国立劇場は、日本を代表するオペラハウス。隣接する東京オペラシティとともに舞台芸術の発信基地として、国内外のアーティストが熱演を繰り広げます。公演後の打ち上げは、53階にある「トラットリア・ベラビスタ・サバティーニ」で盛り上がることも。東京の大バノラマが広がる素晴らしい眺望を前に「与えられた課題をこなすだけの歌い手に留まらず、いずれはオペラをプロデュースしたい」と夢を語ってくれました。「子供の頃は意外にも内気で、音大時代も特に優秀ではなかった」と振り返ります。「ステージを踏む度に雑念を捨て、集中すべきことに集中できる術を覚え、本

質が見えてきた」と言い、そんな過程を「ステージフライト」と呼ぶのだと教えてくれました。

今秋発売予定の初CDの制作も始まりました。企画は「あるイタリア人作曲家の未発表コレクション。名曲だけに、パリで楽譜を発掘した瞬間、興奮したわ」と瞳を輝かせます。異国の古典芸術という難解な題材を、分かりやすい形に置き換えて、聴衆に伝えたい情熱を集約できる総合力を兼ね備えているからだと感じました。明るく前向きで愛らしい人間性こそが、音楽ファンの裾野を広げていくことでしょう。

中嶋彰子さんより

雑誌「美生活」に期待すること

海外にこの手の雑誌はないので、初めて手にした時、日本人女性の優雅な暮らしぶりに新鮮さを感じました。新創刊1周年記念などに、登場人物が一堂に集い、読者と交流できるイベントを企画しても面白いですね。

- Writer Akiko Tamura
- Photos Ken Ohashi
- Hair & Make Motoko Suga